

2025年度 入学試験問題

国語

(6 0 分)

〔 注 意 〕

-
- ① 問題は㊦～㊱まであります。
 - ② 解答用紙はこの問題用紙の間にはさんであります。
 - ③ 解答用紙には受験番号、氏名を必ず記入のこと。
 - ④ 各問題とも解答は解答用紙の所定のところへ記入のこと。
 - ⑤ 各問題とも特に指定のない限り、句読点、記号なども一字に数えること。
-

西大和学園中学校

国語訂正

3ページ

19行目

誤

…^Cオノズト^{かたよ}偏る空間だけに、…

⇐

正

…^Cオノ^{かたよ}ズと偏る空間だけに、…

9ページ

22行目

誤

…信彦はなにかと取り憑^っかれたような表情で、…

⇐

正

…信彦はなにか取り憑^っかれたような表情で、…

20ページ

10行目

誤

問 次の文章は七つの段落で…

⇐

正

問 右の文章は七つの段落で…

問題は次のページから始まります。

次の文章は、決して少なくない割合の子どもたちがネットで知り合った人間から、犯罪にまきこまれているという調査結果に続くものである。これを読んで、あとの問いに答えなさい。なお、問題の都合上、文章を一部改めている。

こうした調査結果を見て、「この馬の骨かも分からないネット上の人間を信じるなんて、どうかしている。ネット上の不完全なコミュニケーションだけで人を信用するなんて考えられない。^(注1) デジタルネイティブ世代としか言いようがなく、まったくもって理解の範疇を超えている……」といった感想を持つのも分かります。

しかし、ほとんど何も知らないからこそ信頼できるという、^{（しんらい）}摩訶不思議なことがありうるのです。^{（とうしつ）}唐突ですが、ある生物Aの特徴を記した次の文章に目を通してみてください。

- ・大顎^{（あご）}が発達しており外敵にかみつく。
- ・大きな外敵に対しては、しばしば集団で襲^{（おそ）}いかかる。
- ・毒針で攻撃^{（こうげき）}をする種もあり、その毒は人を死に至らしめる場合もある。
- ・サハラ砂漠^{（さばく）}に生息する個体のなかには、秒速八五センチメートルで移動する俊敏^{（しゅんびん）}なものもいる。

人それぞれイメージした生物は違うでしょうが、相当危険なものが頭に浮^{（う）}かんだに違いありません。身の安全を守るため、なるべく遠ざけたい生物であることは間違いなさそうです。

次の文章もまた、ある生物Bの特徴を記したものです。

- ・体長は大きくても三センチ程度しかない。
- ・日常的によく見られる生物で、私たちは気にも留めず生活をしている。
- ・夏休みの自由研究として飼育されることもあるが、しばしば全滅^{（ぜんめつ）}してしまう。
- ・砂糖のような甘い^{（あま）}ものが大好き。

最後の特徴を見て、蟻^{（あり）}を連想した方が多いと思いますし、実際にそれは正解です。小さくて脆弱^{（まろ）}で人間に危害^{（あた）}を与えることのない蟻

は、生物Aとは違って恐れる必要は全くないというのが一般的なイメージだと思います。

A、実は生物Aもまた、蟻に関する説明文に違いなのです。なんだか危険な雰囲気のある大顎というワードは、蟻・バッタのみならず蚊にさえ存在する器官であり、人間に大きな危害を与えるものではありません。毒針攻撃は誤ったイメージを与えかねないものの、外国には実際に存在する種ですから事実です。毒針にサハラ砂漠と続くのでサソリのような生物を連想した方もいらっしゃるでしょうが、それは受け取り側の想像の産物に過ぎません。

小さな蟻とはいえ強そうに見える部分だけを抽出すれば、あたかも危険な生物であるかのように演出するのは簡単です。ごく一部をピックアップし、その他の大部分を捨象してしまえば、実像とはかけ離れた印象を相手に与えられるわけです。

しかも、生物Aの記述が「実像が正確に伝わるような説明ではないものの、嘘をついているわけではない」のですから、ルール違反だと言われる筋合いはありません。

ネット上の人々もまた、相当なレベルで抽象化されています。先述したように、信頼できるネット友はどんな悩みでも打ち明けられる存在であり、**B** 親身になって話を聞いてくれる友達です。特定のゲームが共通の趣味になっていて、時間を忘れて遊んだ日々という楽しい記憶もあります。ネット友が信用に足るだけのポジティブな部分は、これでもかと抽象化されているわけです。心から信頼できるネット友とは、信頼に足るだけの一面ばかりがピックアップされてきた集合体のような存在です。

ネット友から送られてきた顔写真や動画についても同様です。昨今の加工技術の進歩は目覚ましく、画像のみならず動画でさえ、本来の姿とはかけ離れた美男美女に変身することは容易です。しみ・そばかす・ニキビの類は捨象されて綺麗な肌になり、目の大きさや足の長さといったポイントは強調されます。もし鼻や顔の大きさが気になるならば、**a** シュクショウすればよく、しかも何ら特別な知識や技術は必要ありません。

自分を撮影した写真、いわゆる自撮り画像をよく見せる（盛る）ためのアプリやテクニックはネット上にいくらでもあり、小学生でも簡単に利用できます。

その一方、生身の人間と人間が付き合えば、たとえ親友としても嫌なところの一つや二つは目に付くものです。全てにおいて気が合い、欠点が全く見当たらない友人を作れた方は稀でしょう。

C、ネットであれば、そんな完璧な友人を作れる可能性が随分と高まります。なにせ、そのネット友のことについて、ほとんど何も知らないのです。知っていることは、抽出されたポジティブな側面ばかりですから、嫌いになろうにもなりようがありません。¹ 知らぬが仏とも言えばよいのでしょうか、実際に会ってコミュニケーションを重ねれば知れる苦手な部分を、一切見ずに済む

わけです。学校に居場所がなく、ネットと作ったサードプレイスが唯一の居場所になっているケースであれば、これらのことはなお一層、妥当することでしょう。

何を極端な例を……と思ったかもしれませんが、これは極端どころか、現実のネット社会を考えれば控えめでさえあります。

生物Aの蟻に関する説明文については、間違いなく事実しか記載されていません。

しかしネットを含めたネット上の人間の場合、真偽不確かな情報までもが数多く加わることもあり、限りなく先鋭化していきます。もちろん、そこで形成される姿は実像とは似ても似つかないものです。

² 先鋭化してしまうのは、大人が集うネット社会でも同じです。

ために、有名な政治家のSNSを確認してみれば、そのことがよく分かります。熱烈な支持者たちが集っており、これでもかと賞賛の書き込みが積み重なっています。ある一人の政治家を熱狂的に支持する人々の国民に対する割合は、間違いなく非常に小さいのですが、そんな当たり前にすぎる事実を忘れてしまいそうです。たとえば、その政治家のSNSに集まる人々が、ネットユーザー全体の1%にも満たない人数だとしても、膨大な数のネットユーザーが分母であるため大人数に見えてしまい、集まっている人たちは、自分たちがマイノリティーであることに気付きにくいのです。「特殊が普通になる」と言ってもよいと思います。そしてそんな特殊な普通を、ネットの外の社会にも適用するとしば厄介なことが起きてしまうわけです。

政治に関する情報だけでなく、同様の考えを持ったユーザーたちとSNS上で繋がれば、類似した書き込みや自説を補強する情報を繰り返す目の当たりにします。^a アルゴリズムが働き、ユーザーが気に入る情報がユウセン的に表示されるようにもなりますので、まるで閉鎖的な情報空間に閉じ込められたかのようでもあります。あるフィルターを通過した情報がこだまする空間をバブルと見立て、昨今では「フィルターバブル」と名付けられ問題視されています。

もちろん、いくら閉鎖的な空間だとしても、たまには反対意見を目にすることもありますし、なかには意図的に異なる主張を収集している方もいらっしゃるでしょう。^c オノズト偏る空間だけに、そうした姿勢は大切だと思います。

D、私たち人間はバイアスの塊であり、反対意見を公平に取り入れるのは難しいことが科学的に分かってきました。特に知性の高い方々に言えることですが、仮に説得的な反論や自説に反する情報を目にしても、その持ち前の頭脳を使い、退けてしまうのです。一時的に自説が非合理的になったとしても、すぐさま合理的なものになるよう論理が組み替えられてしまうわけです。こうなると、反対意見を得るほど理論武装が強化されるようなものであり、なお一層のこと考えが偏るという³ 本末転倒な現象が起きかねません。

人間がバイアスの塊であることを示す科学的な実験や調査は、数多く確認することができます。自説を補強するものであれば怪しい

情報でも容易に信じてしまったり、論理的な主張よりも感情を大きく揺さぶるような情報から大きな影響を受けたりするという。ホウコクもまた、人間の欠陥を露にした一例です。

こうした人間の姿を見ていると、立川談志師匠が残した言葉を思い出します。

談志師匠は「酒が人をダメにするんじゃない。人間がもともとダメだということを教えてくれるものだ」と話しましたが、この「酒」を「ネット」に置き換えても、そっくりそのまま通用しそうです。

元来、人間は情報を客観的に処理することができないというダメな部分がありました。しかし、そんな欠陥をネットが明瞭にし、しかも増幅してしまったのが現代だと言えます。私たちは、そのダメな部分をまだ十分に自覚できておらず、以前であれば考えられなかったトラブルが生じ戸惑っているのです。

(物江 潤『デジタル教育という幻想』による)

【語注】

(注1) デジタルネイティブ : インターネットやデジタル機器がある環境で生まれ育った人のこと。

(注2) 脆弱 : もろくて弱いこと。

(注3) 捨象 : 物事のイメージから、一つまたはいくつかの特徴を分けて取り出すときに、それ以外の特徴を捨て去ること。

(注4) 抽象化 : 複数の情報に共通する要素を抜き出すこと。

(注5) ネット : インターネット上だけでつながり、現実世界では接点のない友人を指す。

(注6) 稀 : めったにないこと。

(注7) サードプレイス : 家庭や職場以外の、居心地がよくリラックスできる場所。

(注8) 妥当 : 考えや行いに無理がなく、適切であること。

(注9) 先鋭化 : あるものが極端に表れるようになること。

(注10) アルゴリズム : 問題や課題などを解決するための手順や計算方法。

(注11) バイアス : 偏ったものの見方や考え方。

(注12) 立川談志師匠 : 落語家。一九三六〜二〇一一年、東京都出身。

問一 ―― 部 a と d のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。(楷書で、ていねいに書くこと)

問二 A と D に接続語をいれたとき、一つだけ働きが異なるものがあります。それを A と D の中から一つ選び、記号で答えなさい。

問三 ―― 部 1 「知らぬが仏」とありますが、筆者はここではどのようなことを言おうとしていますか。現実とネットの違いをふまえて、八十字以内で説明しなさい。

問四 ―― 部 2 「先鋭化してしまうのは、大人が集うネット社会でも同じです」とありますが、なぜそう言えるのですか。その説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日々多くの情報が更新されていくネット社会では、大人でも更新されていく情報を受信することに追いつかず、古い情報だけでものごとを判断してしまうから。

イ 正しいかどうか分からない情報があふれるネット社会では、大人でさえ取り出された一部の情報で判断しようとして、実像から離れた認識を持ってしまうから。

ウ 多くの専門的な情報が公開されているネット社会では、大人でさえすべての情報を理解することができず、簡単な情報だけを選び取るようになるから。

エ 世界中のネットユーザーたちが発信する情報の信用度が低いネット社会では、大人でさえ数ある情報の中から正しい情報を見抜くことに時間がかかるから。

オ 似たような考えをもつ人間だけが集まる傾向があるネット社会では、大人でさえ周囲と異なる意見を発信することをためらってしまうから。

問五 — 部3「本末転倒な現象」とありますが、本文ではどのような現象を指していますか。その説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 知性の高い人は、自分と同じような意見ばかり取り入れるよりも、自分とは異なる多様な意見を取り入れる方が、かえって正しい考えを選ぶことができるということ。

イ 人はもともと感情に左右されやすいため、自分の意見が誤っていてそのことを他人に指摘されたとしても、かえって自分の意見が正しいと主張して改めようとしないうということ。

ウ 人は主観的な生き物のため、論理的に正しい情報よりも、感情を大きく揺さぶるような情報を与えられるほうが、かえって情報の正しさを容易に信じてしまうということ。

エ 知性の高い人はどんな反対意見でも簡単に退けてしまうため、周囲の人たちは意見を言うことをやめてしまい、かえって自分の考えが変わるきっかけを失ってしまうということ。

オ 知性の高い人は自分の意見が偏らないように反対意見を公平に取り入れようとすればするほど、かえって自分の考えが強化されて、いっそう自分の考えが偏ってしまうということ。

問六 — 部4「この『酒』を『ネット』に置き換えても、そっくりそのまま通用しそうです」とありますが、なぜネットにおいてもそのように言えるのですか。本文全体をふまえて、九十字以内で説明しなさい。

東京で「高羽ガレージ」というバイクの整備工場を営む「俺」は、突然ひとり娘の亜弥が信彦と結婚するという話を聞かされ、反対したが、ふたりは結婚し福岡で暮し始めた。その後、亜弥が妊娠し「俺」は妻の千代子に娘夫婦が住む福岡へお見舞いに行かせた。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

そのとき、デスクの上の固定電話が鳴った。

いつもなら千代子が出るが、仕方ないので俺が受話器を手に取る。電話は苦手だ。

「高羽ガレージです」

「……あ…。信彦です」

思わず「う」と息がつまった。信彦が電話をかけてくるなんて初めてのことだった。

「突然すみません。実は今日、東京に出張に来ているのですが」

「え、そうなのか」

「あの……、今から少しだけ、そちらにおうかがいしてもよろしいでしょうか」

俺は受話器を持ったまま困惑した。

信彦がここに？ 今から？ なんでまた急に。

少しだけ、か。さっと来てさっと帰るのか。それで納得した。

おおかた、千代子に様子見に行つてやつてよとかなんとか、頼まれたんだろう。無理強いされて仕方なくというところか。

「……………かまわんよ」

あ、と息をもらすような小さな声が聞こえる。

「では、三時頃によろしいでしょうか」

「うん。工場の場所、わかるか」

「はい。住所で検索します」

電話を切ったあと、心臓がドキドキしていた。

気を落ち着かせようと烏龍茶を飲む。

携帯電話じゃなくて工場にかけてくるなんて、

a 他人行儀だな。まあ、他人だけだな。

そんなことを不服に思いながらキャップを締め、はたと気づく。

……………いや。

俺は信彦に携帯電話の番号を伝えていない。そんなきつかけがなかった。

だけど、それにしたって、「少しだけ」ってなんだよ。愛想^{あいそ}のない。

来るなら来るでちゃんと時間とって、前もって連絡^{れんらく}してくりゃいいだろ。そうしたら俺だって都合つけて飲みにも連れて行ってるのに。

いや、待て。俺はそんなことしたいのか。たった一時間だとしたって、ふたりで何を話せばいいんだ。

¹矛盾^{むじゅん}だらけで自分で自分が

よくわからない。

結局、俺は信彦が何を言っても何をしても気に入らないのかもしれない。

……………もしかして。

出張で東京にきたなんて嘘^{うそ}で、何か重大な話でもあるんじゃないだろうか。

俺はそれから握り飯^{にぎめし}も喉^{のど}を通らず、作業に戻ろうとしても手につかず、（A）何度も時計に目をやった。

三時ちやうどに果たして信彦は現れ、蛍光灯^{けいこうとう}のちらちらしている入口で、（B）顔をのぞかせた。

「……………こんにちは」

ちいせえ声だな。

もつとこう、景気よく入って来いよ。

俺は「おう」と軽く返事をし、信彦を中へ促^{うなが}す。

スーツ姿の信彦は目だけきよろきよろさせながら、作業場に足を踏み入れた。

しょぼい工場だと思ってるのかな。

まあ、そうだろうな。大手企業^{きぎやう}の本社に勤める信彦にとっては、吹けば飛ぶようなチンケな職場^{しやうが}に違い^{ちが}いがない。さぞ驚^{おどろ}いたろうよ。

「これ、どうぞ。九州土産^{きゅうしゅうみやげ}です」

信彦は小さな紙袋^{かみふくろ}を俺によこした。

「……………おう。すまん」

中をのぞくと、小さなプラボトルが一本入っている。中身は黒い液体で、ボトルには「宮」という漢字が丸で囲われたロゴがついて

いた。

「福岡の醤油しょうゆです」

「そう…か」

醤油。まあ、いいけど。醤油か。

福岡土産っていったら、もっとわかりやすいのいろいろあるだろ。明太子めんだいことか通りもんとか。俺は ² なんだか意地悪な気持ちになつて、つつけんどんに言つた。

「でも俺、料理しないからな。千代子が帰ってきたら使わせてもらうよ」

「あの……お刺身さしみとか」

俺は「^b そうだな」と生返事をしながら、紙袋をデスクの端はしに置いた。ふと、さっき使っていたアイパッドが目につく。

そういや、信彦は ^(注1) SE って言つてたな。この手の機器には強いだろう。

「あのさ、これ、縦で見てるのにいきなり横になるんだよ。壊こわれてんのかな」

信彦は無言のままアイパッドを手に取り、画面の右端をすつとなぞつた。

とたんに、いろいろなマークが現れる。飛行機やカメラや懐中電灯かいちゅうとうや。その中にある南京錠なんきんじょうのような形を、信彦はとんと叩たたく。ぱつと色が白く変わった。

「これでロックされましたので、表示の向きは動かないと思います」

「え、でもまた横にしたいときは？」

「先ほどのアイコンをもう一度タップすれば解除されます」

マニュアルを読み上げるみたいな冷たさを感じながら、俺はアイパッドを受け取つた。

信彦がパソコンを凝視ぎょうししている。音が気になるのだろうか。

「あ、これな。最近、ジージーいつてうるさいんだよ」

「ちよつと、見せていただいていいですか」

信彦はなにかと取り憑つかれたような表情で、パソコンの前に座すわつた。

無言であれこれと調べたあと、信彦は（C）「デフラグでいけるかな」と言つた。俺ではなく、ひとりごとらしかった。「デフラグ？」

「おそらく、ハードディスクドライブの容量不足が原因じゃないかと思います。デフラグといって、データを整理して正しく配置することで、動作が不安定になるのを解消する方法があります。やってみます」

何を言っているのかさっぱりわからなかったが、こんなに（D）しゃべる信彦を見たのは初めてで新鮮だった。

俺はデスク脇に置いてあったパイプ椅子に座り、なりゆきを傍観した。

あれこれとキーボードを打ち、マウスを動かし、信彦は少しの間、黙ったまま作業していた。そしてキーボードから手を離すのとは同時に、ジージー音がおさまった。

信彦が小さく「よしっ」と言う。唇の端が（E）上に上がっていた。

「たぶん、これで音も消えて前より動作が軽くなると思います」

「あ、ありがとう」

それは助かった。

助かった、が。

そこから俺たちはお互いに話すこともなくうまく会話ができず、何度もヘンな間ができてしまった。

俺が亜弥は元氣かと訊ねれば「はい」と返ってきてそれきりだし、信彦が「お仕事、お忙しいですか」と問いかけてきても俺は「まあな」としか言えない。

何か重大な話があるのではという懸念はおそらくそういうことでもなさそうで、信彦がここにいる意図がよくわからなかった。

そうだ、野球。そんな話をまだしていない。

「信彦くん、そういうや野球の球団はどこを応援してるんだ」

「どこというのは特に……」

「そうか」

終了。

俺は辺りを見回した。何か話題は。デスクの端に置かれていたメモが目に入る。

そうだ、これ。

「最近知ったんだけどよ、太陽と月って、ぜんぜん大きさが違うのに、地球から見ると同じぐらいのサイズに感じるだろ。あれ、なんでもか知ってるか」

俺がすごいことを教えてやろうという気でいるのに、信彦は無表情でこう答えた。

「月と太陽の大きさと、地球からの距離の比率が同じなのでしょうか」

「……………まあ、そうだな」

なんだ、頭のいい奴っておもしろくねえな。俺は憤慨しながら続けた。

「太陽が月の四百倍の大きさで、地球からの距離も四百倍っていう、偶然の一致なんだってよ」

「そうなんですね、四百倍」

信彦は真顔で首をこくこくさせた。

³ 3 そういうんじゃないくてさあ、「へえー！」とかリアクションしてくれたら楽しいんだが。

「天体、お詳しいですね」

気を遣って話を繋げようとしているらしい信彦に、俺もなんとか言葉を絞り出す。

「いや、俺は詳しいわけじゃないけど、お月様が大好きっていう人が言ってたのを最近聞いてな」

信彦は眼鏡のフレームをそっと上げた。

「僕、前から不思議だったんですけど」

「ん？」

「月のことをお月様、太陽のことをお日様とかお天道様って言うのに、他の惑星はまとめてお星様ですよ。木星様とか金星様って言わないのはどうしてなんだろう」

「……………それは俺も知らないが」

よくわからん男だな。そんなことを前から疑問に思ってたのか。

「思うに、神格化かもしれません」

「しんかくか？」

「神として扱っているんだと思います。他の星は全般として一括りですが、人間にとって太陽と月は特別な力を持った神と同じ大きな存在で、だから願い事をかけたりするのもかもしれない」

そこまで言うのと、信彦は腕時計をちらっと見た。

もう帰りたいんだろう。俺は投げやりに答えた。

「俺は神だとは思わないね。願い事もしないよ。お月様、お天道様って言うときは、親しみを込めてだ。大きいっていうより、近しい存在としてな。まあ、あとは恵みを与えてくれることに対しての感謝かな」

そう答えたあと俺は、勢いよくパイプ椅子から立ち上がった。もう帰っていいよと言わんばかりに。それを察したのか、信彦も席を立つ。

「お仕事中に突然おじゃまして、失礼しました」
痩せた体を折るようにして、信彦がお辞儀をする。

(中略)

ガス点検が済んだあと、俺は千代子に電話をかけた。

指示どおり立ち会ったことと、化粧品が届いていることを伝える。どうでもよさそうに相槌を打ったあと、
千代子は高ぶった声
で言った。

「ねえ、それより聞いたわよ。昨日、信彦さんが工場に行ったんですって？」

「ん？」

「え？」

俺は戸惑った。

「おまえが様子見てこいって言ったんじゃないのか」

「違うわよ、だって弾丸の日帰りだったんだもの。そんなの悪いじゃない。ぜんぜん時間に余裕なんかなかったはずよ」

「たしかに小一時間でそそくさと帰っていったけどな。いきなり今から行ってもいいかって電話がかかってきてびっくりしたよ」

「お仕事やりくりして、なんとか時間調整したんじゃない？ 約束しても行けなかったら悪いと思ったんでしょね。行けるとわかってから連絡したんだと思う」

千代子の差し金じゃなかったのか。信彦の意志で？

「信彦さん、工場にすごく感動してた。お父さんとお母さんが築き上げた神聖な場所だと思いました、なんてね。お父さんと宇宙の話がたくさんできて、とっても楽しかったって言ってたわよ。なによ、宇宙って。亜弥もびっくりしてた」

………楽しかったのか。

なんで俺にちゃんとそう言わないんだよ。

「いや、俺は突然のことで何を話せばいいのか……。ああ、土産に醤油もらったぞ」

「醤油？　もしかして、ミヤマルの？　あれ、お刺身にすごく合うので有名なのよ。九州のお醤油って甘口あまくちでね、生魚のおいしさを引き立てるんですって。中でもあそこのは格別で、ちよつとろみがあって絶品なの。お父さんがお刺身好きなのよって私が教えたなら、信彦さん、今度食べてもらいたいって言ってる」

………なんだ、それ。なんだ、それ。

そんなこと、ひとつとも言わなかったじゃないか。

ああ、いや、「お刺身に」って言ってたな。俺が会話を遮断しゃだんしたんだ。

そうだ、言いたいことを言わせなかったんだ、俺が。千代子みたいに受け入れる姿勢を取らなかったから。

あれは口下手な信彦の、精一杯せいいつぱいの……。

黙っている俺にかまわず、千代子は話し続ける。

「でもミヤマルって通販つうはんもしてないし、スーパーでも取り扱とってないし、お店は遠いのよ。信彦さん、わざわざ買いに行ったのね」
そんな恩着せがましいことも言わずに、ただ、俺にうまいものを食べさせたいだけで？

俺は、信彦の気持ちをちゃんと想像して理解しようとしたことがあっただろうか。バイクを触さわってあれこれ考えるようなことを、彼かれにしたことがあっただろうか。自分とはタイプが違う、気が合わないって、頭から拒絶きょぜつしてばかりで。俺のシナリオ通りじゃないって、不服ばかりで。

不具合の直ったパソコンの前で、小さく「よしっ」とほえんだ信彦を思い出す。動かなかったバイクのエンジンがかかったときの俺みたいに。

人には本当の気持ちをうまく言葉で伝えられないで、物言わない機械に並々ならぬ愛情を注ぐ……。

ああ、今さら気が付いたよ。いや、わかつてはいたけど、認めたくなかっただけかもしれない。

⁵ 似てんじゃないか、俺と。

ふ、と思わず吹き出だしたら、千代子が「どうしたの？」と訊ねてくる。

「なんでもない。昨日はパソコン直してくれてありがとって、信彦さんに伝えてくれ」

問一 ―― 部 a 〃 c の本文中における意味として最もふさわしいものを、次の各群の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

a 「他人行儀」

- ア 公式の場で形式的な応答に終始すること。
- イ 身内に対しても適切な気遣い^{きづか}をすること。
- ウ 身内なのによそよそしい態度をとること。
- エ 自分の非を隠^{かく}すために言い訳を続けること。
- オ 目上の相手に対して礼儀正しくふるまうこと。

b 「生返事」

- ア 敬意を欠いた返答をすること。
- イ 自分の意見を率直^{そつちよく}に伝えること。
- ウ いい加減な受け答えをすること。
- エ 簡潔で分かりやすく答えること。
- オ 相手を不快にする返事をする事。

c 「恩着せがましい」

- ア 自分の親切な行いを自慢^{じまん}して相手を見下そうとする偉^{えら}そうな態度のこと。
- イ 相手の望むことを理解したうえで迷惑にならないようにする態度のこと。
- ウ 自分の考えを一方的に押しつけ相手の都合を考えない迷惑な態度のこと。
- エ 自分の厚意を相手にありがたく思わせようとする厚かましい態度のこと。
- オ 相手への敬意を大げさではなく控えめに伝えようとする謙虚^{けんきょ}な態度のこと。

問二 (A) 〃 (E) に当てはまる語としてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、

同じ記号を二度以上用いてはいけません。

- ア きゅっと
- イ ざわざわと
- ウ するすると
- エ そわそわと
- オ ばそりと
- カ もそっと

問三 — 部1「矛盾」とは「二つの物事が食い違っていて、つじつまが合わないこと」という意味ですが、この時のどのような状況^{じよう}が「矛盾」なのか。それを説明したものとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 信彦が気を利かせて前もって来ることを知らせてくれたら時間をとって話ができるにもかかわらず、信彦の仕事の都合で時間があまりとれないためにお互い^{たが}重大なことを話すことができない状況。

イ 信彦と親密な関係を築くつもりはないため「俺」からは携帯電話の番号を教えるつもりがない一方で、信彦が工場の電話にかけてきたことを「俺」は思いやりがないと不服に思っている状況。

ウ 信彦が事前に連絡をくれなかったせいで「俺」は何の準備もできないことを不満に思う一方で、仮に連絡をもらっていてもどうやってもてなしたらよいか分からないから困るという状況。

エ 「俺」は信彦と話し合うことで二人の結婚に反対したことを謝罪し誤解を解きたいと思う一方で、自分が悪いことをしたわけではないので彼と話すことはない^{きよぜつ}と信彦を拒絶して^{きよぜつ}る状況。

オ 信彦に来訪の目的はなく妻に無理強いされて仕方がなく来る^すことが「俺」には見え透いて^すいる一方で、実はそれがすべて演技で信彦には重大な話をするという目的があるという状況。

問四 — 部2「なんだか意地悪な気持ちになって、つっけんどんに言った」とありますが、なぜ「俺」はそのような態度を取ったのか。五十字以内で説明しなさい。

問五 — 部3 「そういうんじゃないくてさあ」とありますが、このときの「俺」の思いの説明として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

アとうとつに始まったあまり興味のもてない天体の話に、信彦が気をつかって興味のあるフリをしていることが俺には分かり腹立たしく思っている。

イ自分の話に真剣に耳を傾けてくれるのはうれしいが、ここはたわいのない話で反応を楽しむところであり、彼の無愛想な反応に物足りなさを感じている。

ウ自分がすごいと思つて始めた話が信彦にとっては簡単でつまらない話であり、信彦が自分の頭の良さを鼻にかけて自分のことを見下していると思つている。

エすごい話を聞かせて会話を盛り上げようとしているのに、さも当たり前で興味がなかのようには振る舞つて話を盛り上げようとしない信彦の様子に、がっかりしている。

オ四百倍という数字の大きさに興味を持つている信彦に対して、自分は大きさと距離の偶然の一致に興味を持っており、信彦とわかり合うことは難しいと思つている。

問六 — 部4 「千代子は高ぶつた声で言った」とありますが、その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア遠い福岡から仕事の合間を縫つてわざわざ信彦が夫に会いに行つて、二人で楽しいひとときを過ごしてくれたことがうれしかったから。

イ自分と夫が一から築き上げた自慢の工場を信彦がわざわざ見に行つてくれて、その工場と夫のことを褒めてくれたことが誇りだったから。

ウ娘との結婚をずっと反対している夫がようやく信彦の訪問を受け入れて、二人の結婚を祝福して心から安心しているから。

エ気難しい夫が言われたとおりの用事を済ませて電話をかけてくれたことがおかしく、夫がちゃんと暮しているかさらに知りたくなつたから。

オ仕事で忙しなかわざわざ信彦が会いに来てくれたのに、不器用な夫のことだからたいしたおもてなしはできなかったと思ひらだったから。

問七——部5「似てんじゃねえか、俺と」とありますが、二人が似ているところとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 口下手で自分の気持ちを上手に伝えることができないが、周りの人を常に気配りすることができる。
- イ 心の奥底では相手を思いやる気持ちをもっているが、自分の思いを言葉にうまく伝えられない。
- ウ 機械にだけは愛情を持って接することができるため、周囲から技術者としての腕を信頼しんらいされている。
- エ 世間話などの人付き合いは苦手だが、機械や天体の話は好きでその話はいつまでも話していられる。
- オ いちいち言い訳することをよしとせず、黙って人に尽くそうとしてかえって相手を傷つけてしまう。

問八——部6「今日は仕事が終わったら、駅のほうまで足をのばして、スーパーで刺身を買おう。俺はそう決めて、外に出ると空に向かって大きな傘を広げた」とありますが、この時の「俺」の思いを本文全体をふまえて九十字以内で説明しなさい。

三 あとの各問いに答えなさい。

(i) 次のAさんとBさんの会話を読んで、あとの問いに答えなさい。

A どうして、「過」という漢字には、いろんな意味があるのだろうか。たとえば、「荷台に載りきらない荷物を載せる」ときの「過」をつかった熟語は①だよ。でも、「すっかり信号を無視して渡ってしまった」ときの「過」をつかった熟語は②。意味が全然違うのに、同じ漢字を使うのはなぜだろうと思つてさ。

B たしかに他にも、現在よりも前のことを表す「過去」もあるよね。でもこれらの「過」には共通点があるんだよ。「過」は文脈によつて異なる意味を持つけれど、「X」
「X」という考え方は共通しているんだ。漢字の持つ共通の考え方を理解した上で、文脈に応じて使い分けることが大切なんだよ。

A そうしたら、よく似ている言葉でも漢字が違えば、意味合いは違うのかな。

B そうだね。たとえば「話す・語る・言う」は「言葉を発する行為」という意味では共通だけど、違いがあるよ。熟語にしてその違いを考えてみよう。「話す」は相手とのやりとりの中で使うことから③という熟語が思いつく。「語る」も相手がいるけれど、テーマにそつたまとまった内容を伝えようとする時に使うので、ある程度まとまったお話のことを④と言うよね。そして、「言う」は「言葉を発する」という行為を指すので、相手がいなくても使えるから、⑤という言葉があるよね。

A 熟語を使うことで、言葉のニュアンスが理解しやすくなるね。言葉を使い分けるときに参考になるよ。

問一 ① く ⑤ に当てはまる適当な熟語を、自分で考えて答えなさい。なお①く④は漢字二字、⑤は三字で答えること。

問二 X に当てはまる適当な文を十字以内で書きなさい。

問三 右の会話を参考にして「かつてにしゃべらせるとすっかり秘密をしゃべってしまう」という意味の慣用句を、解答欄に合うように言葉を入れて完成させなさい。

(ii) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

1 あわてているとき、私たちは机の上にあるものを見つけられないことがあります。目の前にあるのに気がつかないのです。ですが、一つ深呼吸をして、少し眼を閉じてみると、探し物が視界に入ってきます。

2

3

4

5

6

7 言葉は、多く読むことよりも、深く感じることに方に圧倒的な意味があるからです。

(若松英輔『本を読めなくなった人のための読書論』による)

問

次の文章は七つの段落で構成されています。段落 2・3・4・5・6 に入るものとして最も適当なものをそれぞれ選び、文章を完成させなさい。ただし、同じ記号を二度用いてはいけません。

ア まず、あせるのをやめましょう。それはあせっても意味がないだけでなく、あせることが「読める」ようになることを邪魔するからです。

イ むしろ、時間をかけて「たしか」にできるようになることだけが大切で、速くできてよいことはほとんどありません。

ウ このことは「読む」ことにもいえます。

エ 読まなくてはならないと思って本を読むとき、私たちは大切なものを見失っている可能性があります。読もうと思っているものしか感じられなくなっているかもしれないのです。

オ 少なくとも読むことにおいて、速くできるようになることは、ほとんど意味がありません。



↑ここにシールを貼ってください↓

姓名	氏	呼稱	種	騾	又
...	...	...	...	...	...

※のらんには何も書かないこと。